

# 授業科目 成人言語障害学 II

【担当教員名】 内山 信	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	◎	◎
【概要・一般目標：G10】 成人脳損傷者のリハビリテーションチームに専門職として参加するため、失語を中心にしてその言語治療の具体的方法を習得し失語患者のコミュニケーションの改善に向けて行うさまざまな援助の方法を習得する。 失語を対象にした言語治療の具体的方法を習得して実践するため、種々の技法を習得する。				
【学習目標・行動目標：SBO】				
<ol style="list-style-type: none"> <li>失語の言語治療テクニックを列挙し、それぞれの特徴を説明できる。</li> <li>失語の言語治療の流れを理解し、初回評価から訓練終了時までに行うべき臨床活動を述べることができる。</li> <li>失語の具体的症例に対して訓練計画を立案する際の要点を説明できる。</li> <li>失語の言語訓練材料を列挙し、その適応について説明できる。</li> <li>地域での言語リハビリテーションの実態について説明できる。</li> <li>失語の評価結果を基にして、言語治療計画が立案できる</li> </ol>				
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	失語症における障害の範囲と特徴		1, 2	講義
2	失語症治療の目標、理論		1, 2	講義
3	治療計画と治療手続き		1, 2	講義
4	失語症の回復と治療効果		3, 5	講義
5	語産生の障害とその訓練		3, 4	講義
6	聴覚的理解障害の臨床と訓練		3, 4	講義
7	動詞と文処理障害のための働きかけ		3, 4	講義
8	実用コミュニケーション障害改善のための働きかけ		3, 4	講義
9	最重度失語症改善のための働きかけ		3, 4	講義
10	読みの改善のための働きかけ		3, 4	講義
11	書字の改善のための働きかけ		3, 4	講義
12	心理・社会的問題への働きかけ		3, 4, 5	講義
13	訓練計画の立案		6	演習
14	訓練計画の立案		6	演習
15	まとめ			
【使用図書】				
	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	失語症臨床ガイド	竹内愛子 編集	協同医書出版社	2003・5,500円＋税
参考書	よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション	鹿島晴雄、大東祥孝、種村純 編集	永井書店	2008・10,000円＋税
	脳卒中後のコミュニケーション障害改訂第2版	竹内愛子、河内十郎 編著	協同医書出版社	2012・5,600円＋税
	新編 言語治療マニュアル	伊藤元信、笹沼澄子	医歯薬出版	2001・6,400円＋税
その他の資料				
【評価方法】 出席と演習内容、定期試験で評価する。		【履修上の留意点】		